

NJ 素流協 News

平成22年3月31日 第63号

平成22年3月31日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館9階)
 TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

第四回国産材利用拡大推進需給協議会

三月十六日(火)、第四回協議会が盛岡市農林会館会議室において開催された。報告・協議事項は次の通り。

一 原木等の需給動向の現状と今後の見通し

ア、素流協の出荷実績と見通し
 今年二月の合板工場向け出荷実績は表の通りで、二社合計で二万³m³を超えた。その結果二月までの累計出荷量は一八・七万³m³となり、年度当初の合板向け出荷計画量一



六・六万³m³を超えた。三月末の累計出荷量見込みは、合板向け二〇・四万³m³、その他一・六万³m³となっており、今年度のお荷量合計は二二万³m³と見込んでいます。

表 合板工場向け出荷実績(m³)

		2月	累計	樹種割合
ホクヨウ	カラマツ	4,670	65,105	54.2
	スギ	8,755	49,207	41.0
	アカマツ	1,277	5,772	4.8
	合計	14,702	120,084	100.0
北日本	カラマツ	2,620	20,967	31.5
	スギ	3,052	45,507	68.5
	アカマツ	0	0	0.0
合計	5,672	66,474	100.0	
2社合計	カラマツ	7,290	86,072	46.1
	スギ	11,807	94,714	50.8
	アカマツ	1,277	5,772	3.1
	合計	20,374	186,558	100.0

なお二月は工場(ホクヨウプライウッド)の発注数量に対し、出荷数量がカラマツで一〇〇〇m³、スギで三〇〇〇m³、合計四〇〇〇m³超過した。月初工場受入単価の値下げなどから出荷が遅れ気味となり、数量不足の恐れがあったことから、大口の組合員に出荷への

協力を依頼した。その後、多くの組合員が国有林請負から手山の伐採に移ったため一斉に出荷があり、調整が間に合わずに発注量を超えてしまった。

国有林のシステム販売については、森林管理署と工場の協定数量合計が一、二、三、五〇m³のところ、九六%の一、一、八四二m³が契約済みとなっている。現在山土場にある素材は、下北管内他合計三、七〇〇m³で、三、五月に分散して出荷し、組合員からの出荷量不足を補う予定である。三月の出荷に関する不安材料としては、林道がぬかるんでトラックが入れず、材を出せないということがある。遠野周辺は例年通行禁止があるので、注意を要するところである。

今年一月の国内の普通合板生産量は一九四、〇二一m³、出荷量は二二三、九七九m³で、出荷が生産を上回っている。昨年十一月には十二mm合板の価格が六〇〇円を切

る状況だったが、現在三〇〜五〇円値を戻してきた。在庫量は一・五カ月分程度となっており、市況は良い方向に向かっていると見える。ただし、価格が五〇〜一〇〇円戻さなければ採算に合うとは言えないので、まだ油断はできない。

一方、輸入合板の在庫がはけていない。二〜三月は商社が輸入を抑え、在庫のバランスがとれてくると思うが、工場としてもこの間、三〜四割の減産も止むなしと考えている。ただし、リフォームの発注が出るなど明るい状況が見えてくるので、生産者の皆さんに対しても、原木受入数量・価格の面で改善していければと思っている。

輸入材については、南洋材が五ドル強値上がりしている。アフリカのガボンが禁輸政策をとり、中国が輸入元をパプアニューギニアに転じたためと考えられる。北洋材は日本向けの生産が進んでいない。かつては注文すればロシアのワニノから宮古へ三日で届いたものだが、現在十二月に発注したも

のが二月になっても入ってこない状況である。昨今の関税問題のため、今年度の北洋材入荷量は、二・三、〇〇〇mにとどまる見込みである。ニュージランド材は中国が買占めており、またチリ材は大地震の影響で梱包用を中心に今後三カ月程度品薄となるだろう。決算シーズンを控えて各商社とも取引はおとなしく、国内生産者にとっては良い材料と言えるだろう。

【質問】合板工場では、輸入材に関してチリ大地震の影響を受けているか？

【回答】ホクヨーはニュージランド産を使用しているため影響はない。輸入材在庫はまだあるが、これも国産材にシフトするかどうか検討中である。材料比率で国産材が八割になっており、外材は特殊な製品にしか使用していない。

【質問】国産材の比率はこれで頭打ちなのか？

【回答】一〇〇%国産材に転換できるかどうかは、客先の要望にもよるが、エコや強度の面から工場

側が顧客側に提案していくことはできる。ハウスメーカーの中には製品の転換に関して消極的な業者もあるが、工場が説明に努力しなければならぬと考えている。材料の転換は工場の設備にも関係するので、高度化補助事業等に乗せながら進めていきたい。

ウ、素材生産業者の生産動向と見直し

三月に入って今年度の国有林における森林整備事業も概ね終了し、手山の伐採に移る生産者が多くなっている。春先は道路の状態が悪く、出荷がスムーズに行かない場合もあり得る。一方、四月に造林・地拵え、また五月に新たな森林整備が始まる所もあり、素材生産が余り伸びないと見込む業者もある。

素材生産は、スギ、カラマツ及び広葉樹パルプ用材を主体としている生産者が多いが、手山にアカマツやアカマツ混交林をかかえているところは、工場の受入がなくなっている。

【質問】工場でのスギ受入量が抑

えられているが、今後三〜四カ月の見直しはどうか。また合板工場へのアカマツ出荷が見込めないとなると、新たな販路は考えられるのか。

【回答】厚物合板の生産が増えればスギ、アカマツの需要も増えるが、現状では特定の樹種が伸びることは考えにくい。合板以外のアカマツの需要については、過去にチップ用など突発的な需要があったこともあるが、用途開拓しないと難しいと思われる。

合板工場で、アカマツを表面に使った新製品をハウスメーカーに売り込んだことがある。ヤニでサnderが駄目になるなど扱いにくい材料だが、製品の出来は良かった。工場設備の改良を行いつつ、客先に認められるような製品作りに努力したい。

二 素材生産をめぐる全国的動向
林野庁補助事業「素材流通コーディネーター事業」が終わった。N J素流協の事業を手本に全国で十五モデルを展開した。三四七の生

産事業体、一・二の工場が安定供給に取組み、合板向けに三〇万m³、チップ向けに一四万m³の実績をつくった。NJ素流協の実績に比べれば数量は少ないが、条件さえ整えば将来的に実現できることが確認できた。

平成二十二年度林野庁新規事業の「木質バイオマス利用加速化事業」では、電力事業用、公共施設・一般家庭用など大口、小口それぞれについて、原木供給者と需要者との間の「マッチング」を支援し、林地残材等を木質バイオマス燃料として供給することを目指している。現在実施主体を公募しており、全素協がこれに手を挙げた。この他にも、林地残材の収集・運搬コスト低減の取組み、木質ペレットの安定的販路開拓など、事業全体として六億二千万円余りが予算化されている。

三 その他

平成二十二年度の協議会運営について、事務局が追って工場側と協議し決定することとなった。

新規組合員紹介

今年度平成二十一年四月一日から平成二十二年三月三十一日まで、次の方々が新規加入、正組合員へ移行しましたのでお知らせします。(組合員数 岩手81、青森11、秋田2 計94)

☆新規加入組合員

- ①住 所 久慈市山形町
会社名 上山林業(有)
代表 代表取締役 上山高雄
入会 平成二十一年四月八日
- ②住 所 二戸市浄法寺町
会社名 小船林業
代表 小船文雄
入会 平成二十一年四月八日
- ③住 所 気仙郡住田町
会社名 佐々木林業
代表 佐々木嘉太郎
入会 平成二十一年
- ④住 所 遠野市附馬牛町
会社名 佐々木林業土木
入会 平成二十一年 五月二十六日
- ⑤住 所 八幡平市作平
会社名 (有)関善林業
代表 取締役 関 雪江
入会 平成二十一年 六月十五日
- ⑥住 所 青森県十和田市
会社名 (有)下久保林業
代表 代表取締役下久保眞信
入会 平成二十一年 八月十二日
- ⑦住 所 一関市大東町
会社名 東磐井地方森林組合
代表 代表理事組合長 千葉政吾
入会 平成二十一年 八月十七日
- ⑧住 所 二戸市足沢
会社名 奥林業
代表 奥 純一
入会 平成二十一年 八月十七日
- ⑨住 所 九戸郡九戸村
会社名 (有)大畑林業
代表 代表取締役 大畑政光
入会 平成二十一年 十一月十日
- ⑩住 所 花巻市大迫町
会社名 (有)高喜木材
代表 代表取締役 高橋 司
入会 平成二十一年九月一日
- ⑪住 所 秋田県鹿角市
会社名 (有)八幡平貨物
代表 代表取締役 齊藤正敏
入会 平成二十一年十月五日
- ⑫住 所 青森県十和田市
会社名 (有)漆坂林業
代表 代表取締役 漆坂政志
入会 平成二十一年 十二月九日
- ⑬住 所 久慈市大川目町
会社名 (有)米内造園
代表 代表取締役 米内吉榮
入会 平成二十二年 一月二十九日

☆移行した組合員

- ⑭住 所 秋田県能代市
会社名 米代トラツク(株)
代表 代表取締役 梅村春男

お知らせ

第七回（平成二十二年度）通常
総会を次のとおり開催します。

と き…平成二十二年五月

十四日（金）十四時三十分

ところ…ホテルメトロポリタン

盛岡 ニューウイング

一葉

労働災害防止のために(3)

▽リスクアセスメントの実行

リスクアセスメントは、報告書に取りまとめることを念頭に次のステップに従って進めます。

ステップ①危険要因の洗い出し

災害発生の原因となる危険要因の存在を認識し、明らかにします。

まず、災害事例から洗い出しを行い、次いで今までのヒヤリハットや安全パトロールの結果、危険予知活動報告、関連法規等の情報からも行います。作業手順や取扱説明書、専門家の意見も大いに役立ちます。

作業毎に、チェックリストを作っておくと便利で「くするとき、くしたので、くになる」と表現します。

ステップ②リスクの見積もり

洗い出した危険要因がどれくらい危ないか、リスクの大きさを決めるのがリスクの見積もりです。

この見積もりは、災害の可能性と災害の重大性の要素で行い、数量化しない方法でそれぞれ3ランクに区分します。(表1)

ステップ③リスクの評価

見積もられたリスクについて、リスクレベルを評価し、リスクへの対応を決定します。(表2)

このリスク対応での留意事項は、リスクゼロを目指すのではなく、

表1 リスクの見積り(数量化しない)

災害の重大性 災害の可能性	災害の重大性		
	軽微(○)	重大(△)	極めて重大(X)
ほとんど起こらない(○)	○○	○△	○×
たまに起こる(△)	△○	△△	△×
かなり起こる(X)	×○	×△	××

表2 リスクの評価

リスク見積り	リスクレベル	リスクへの対応	
		リスクの受け入れ	対策の必要性
××	5	不可能	即座に回避する必要
×△、△×	4		抜本的対策が必要
○×、×○、△△	3		何らかの対策が必要
○△、△○	2	許容可能	現時点では特に必要なし
○○	1	受け入れ可能	必要なし

許容できる水準より低いところまで引き下げることです。

冗談欄

その変態 変でしよ!

近頃は文章を自筆することが少なくなり、パソコンで作成することが多くなつた。

変換ミスは注意しているが、多々あり汗顔の至りである。

多額の利益で問題となつた漢字能力検定協会が、かつて変換ミスコンテストを何度か行っており、

その中から幾つか紹介します。(カッコ内) が作りたい文章。

①何か父さん臭い時がある(何かと胡散臭い時がある)②老いて枯れた感じだ(置いてかれた感じだ)

③口臭か胃の出血を確認して下さい(講習会の出欠を確認して下さい)

④欲で汚いようです(良く出来た内容です)⑤今年から貝が胃に棲み始めました(今年から海外に住み始めました)⑥大腿骨が

災害防止のためには、必ずしも大きなコストをかける必要は無く、コストと効果の観点から妥当なリスク対応を検討します。

と実施

リスク評価に基づいてリスク低減対策が必要であるかどうかを検討し、必要である場合は考えられる全ての低減対策を出し合います。そして、リスクの大きいものから優先的に効果的な低減対策を実施

行します。具体的実行対策の検討にあたっては、その対策の実現性、欠点、コスト、作業性等を勘案して最適な対策を選択するようにします。

リスク低減対策の実施は、優先順位に従って、事業者と作業者が一緒になって行うことが必要です。

ステップ⑤内容の記録

リスクアセスメント報告書は必ず作成し、保管するようにします。後で、必ず役立ちます。

⑦誰か美で劣ってる奴はいないか?⑧五百円で親使わないと(五百円でオヤツ買わないと)⑨その変態変でしよ?(その辺大変でしよ?)⑩チクリ苦情大会(地区陸上大会)⑪婚期よく舞つた甲斐があつた(根気よく待つた甲斐があつた)⑫あなたの顔何か芋みたい(あなたの顔何回も見たい)⑬歯無しに困つた歯科医者(話に困つた司会者)⑭ヤクザ医師(薬剤師)

なお、今度自民党から離党した議員が新しく作る政党的党名「たちあがれ日本」を誰か「立ち枯れ日本」と読んでいました。

平成22年3月分の販売実績

- 1 合板用出荷量を前月と比較すると、スギが約3,060m³減少、カラマツが約710m³増加、アカマツが約350m³増加し、全体では約1,990m³減少している。昨年同月と比較すると、スギが約520m³増加、カラマツが約1,540m³減少、アカマツは約1,210m³増加し、全体では約200m³増加している。工場別では、ホクヨープライウッドが前月比較で約4,170m³減少、昨年同月比較では約1,190m³増加、北日本プライウッドは前月比較では2,010m³増加、昨年同月比較では約3,320m³増加となっている。これら増減の主原因は、工場側の受入調整によると考えられる。なお、これら合板用出荷量のうちシステム販売取扱量は前月より約510m³減少している。
- 2 その他（合板用以外）の出荷量は前月より約210m³増加、昨年同月より約2,460m³増加している。
- 3 今年度の年間計画量に対する、今月までの合板用出荷実績及び全体出荷実績の累計は、合板用で24%、その他が57%、全体では26%の超過となった。

(m³, %)

樹種	長級	販売先				計	累計			
		合板用			その他		計	合板用	その他	計
		ホクヨー プライウ ッド(株)	北日本プ ライウッ ド(株)	その他 合板						
スギ	2.0	2,937	2,675		5,612		64,255			
	4.0	2,213	918		3,130		39,830			
	計	5,150	3,592		(0)	2,513	(8,388)	50.4	12,345	
カラマツ	2.0	2,872	1,903	399	5,174		61,210			
	4.0	1,123	1,926		3,049		33,741			
	計	3,995	3,829	399	(428)	406	(4,783)	46.0	1,483	
アカマツ	2.0	1,235	261		1,496		6,706			
	4.0	132			132		693			
	計	1,367	261		(0)	0	(450)	3.6	74	
その他針 広葉樹									733	
		19			19	219			1,066	
合計					(428)		[0]			
		10,531	7,682	399	18,613	3,138	(13,622)	100.0	15,701	
目標達成率							124.4		157.0	
計画量							166,000		10,000	
									176,000	

長級2.0には2.1を含む、() はシステム販売取扱量(内数)、[] はストックヤードからの出荷量(内数)

落穂拾い

かなり以前に（平成十七年三月号）、素流協ニュースの本欄において書いたことがあるが、「共生」という言葉をきわめて安易に使うことについて苦言を呈したことがあった。この言葉は、環境問題が人類にとって重要であることを強調するための表現方法として使われることが多いのであるが、例えば、「人と森林の共生」という言葉をそちこちで聞いた見たりするが、「共生」という言葉の真の意味からしても、「人間と森林が共生する」なんて事態が生ずることはあり得ない。もともと「共生」は、生態学に関する学術用語であり、二種類以上の生物種が同一の環境で棲息をし始めると当初は互いに争っているが、そのうちに生物種特有の自己への取り込みを繰り返す中で、相互の機能を補いながら、しなやかな共存の関係が生まれること、をいうのである。人間と森林の関係は、これまでも今後も、常に人間から森林へ一方的・片務的であったし、あり続けるのであるというのが筆者の基本的認識である。人類が生存し続けるためには、地球環境を良好に保持していくこ

とが必須の課題であり、我われが常に環境問題について関心を持つて対応していくことはきわめて大切なことである。だが、この問題を人々に関心を持って貰おうとするあまり、実に感傷的というか情念的というか、筆者に言わせれば、子供じみたキャッチフレーズで押し付けてくるのが気に食わないのである。例えば、「地球に優しく」、「悩める地球を救え」という表現が氾濫している。我われは、「地球に優しく」などという思い上がり姿勢ではなくて、「地球さん、どうぞ人間に優しくしてください」とお願いする立場ではないのか。また、地球が悩むのか！、人類を救え！であつて、「地球を救え」とは見当違いも甚だしいと考えないのか。環境破壊で困るのは、地球ではなくてそこに住む人間なのである。それなのに、地球を助けてやろうという傲慢な言い方は主客転倒も甚だしいと思わないのであるらうか。我われは、環境問題ばかりでなく、幾多の解決を図るべき課題を抱えて生きていくのである。それらの問題に対応する姿勢は、感傷的・情念的ではなくして、科学的・論理的な思考が不可欠である。